

ナシにおける花粉採取用品種の特徴

自家採取（受粉樹）に適した品種の利用で収量安定化へ

中国でナシに火傷病の発生が確認され、2023年8月より中国産ナシ花粉の輸入が全面禁止。そのため、受粉用花粉を自家採取するか、受粉樹を植栽する必要があり、当センターで栽培している花粉用品種を紹介する。



採取適期の花蕾（バルーン状）

表 開花始期、花重、花粉収量、温度別花粉発芽率(2024年)

	品種・系統名	開花始期 (月/日)	花重 (g/100花そう)	花粉収量 (g/100花そう)	花粉発芽率(%)				S遺伝子 型
					5℃	10℃	15℃	20℃	
(ニホンナシ)	二宮	3/29	136.1	0.64	47.6	76.7	78.3	75.4	不明
	馬次郎	3/30	95.1	0.34	23.0	54.3	62.7	60.7	不明
	土佐梨	3/30	85.9	0.24	36.0	68.6	68.6	66.5	S ₁ S ₇
	奈良吉野古木	3/30	127.0	0.42	37.7	79.1	81.6	72.4	S ₁ S ₉
	今村夏	3/31	129.8	0.19	37.9	64.1	67.8	65.2	S ₁ S ₁₂
	今村秋	3/31	72.4	0.20	17.1	48.4	52.8	53.2	S ₁ S ₆
(チュウゴクナシ)	鴨梨	3/24	140.3	0.51	5.6	28.3	36.4	41.7	-
(ネパールナシ)	ネパールB	3/14	99.4	0.24	27.6	47.9	49.2	51.6	-

【参考】主要品種の開花始期・S遺伝子型：幸水4/5・S₄S₅、豊水4/3・S₃S₅、新高3/30・S₃S₉

※チュウゴクナシ、ネパールナシは種が異なるため多くのニホンナシで受粉可能

- 開花はネパールナシ(ネパールB)、チュウゴクナシ(鴨梨)、ニホンナシの順で早い。
→ 花粉を自家採取する場合：栽培品種の開花より早いことが重要
受粉樹として利用する場合：開花期が同時期であることが重要
- 100花当たりの花粉収量は二宮、鴨梨、奈良吉野古木の順で多い。
→ 効率的な花粉採取が可能
- 花粉発芽率は、低温環境下(10℃以下)において二宮、土佐梨、奈良吉野古木、今村夏で高い。
→ 受粉時に低温に遭遇しても、安定した受粉・結実が可能